



0-3. 課題

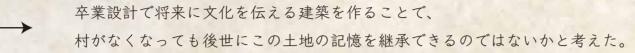
小学校統合や住民の少子高齢化により、昔は行なわれていた文化が行なわれなくなっている。 昔の文化を覚えている人もいなくなってきている。

そして、20XX年には住民がいなくなり、今ある文化が廃れていくことが考えられる。











将来とは。

いつのこと?=1000年後

地球環境センターには「1000 年以上後にグリーンランド氷床が完全に消滅すると海面水位は 7m 上昇すると見込まれています。」と書かれている。

1000年後、海の中に沈み地域の風景が変わる場面までを想像して考える。

小学校の標高が 4.1 m であるので、約 3 m 沈むことを想定する。

0-4. 敷地と文化の選定

文化のほとんどが、神社やお寺などで行なわれており、1000 年後も石でできたものや基礎が風化せずに残り、建築的な痕跡が見られる。しかし、、、廃校の小学校で行なわれている盆行事は、建築物の本来の用途とは 違う使われ方をしている場所で行なわれているため、お盆の痕跡は見られない。そのため、1000 年後に盆行事が残りにくい小学校を敷地として、ここに盆行事の場を作り、後世に盆行事の痕跡を残す設計をする。



0-5. 小学校の盆行事について

毎年8月15日 小学校に村人が集まって皆で盆行事をする。

晴れの日:運動場 雨の日:体育館

7時、17時~

当番の人・役員が集まり、盆行事の準備をする。

8 時~

1年間に亡くなった人(新仏)の写真と位牌を家族が飾りにくる。 18時30分~

お坊さんがお経をあげながら、新仏の家族が1軒ずつ写真の前で焼香して拝む。

↓全家族の焼香が終わると

盆踊りをする。盆踊りの間、順次交代で村人が焼香する。 20 時 30 分 盆行事終了後、当番の人・役員が片付ける。



かや踊り→死者の踊りで後に進みながら踊る 亡くなった人が心配しないように、にぎやかに元気に踊る。

1. 提案

小学校の敷地で、1000年後の未来までを仮定し、2022年から3022年へ向けて、盆行事の記憶を紡ぐものを設計する。

1-1. ストーリー

大昔、高知県土佐清水市布という場所は海の中だった。

そこから長い年月を経て、土地が現れ、村が誕生し、神社やお寺などで毎年お祭りが行なわれ、村は活気で溢れていた。

しかし、少子高齢化により、今まで行なっていた文化が年々行なわれなくなっている。

そして、数十年後には住む人が居なくなり、時間が流れるにつれ、人の記憶にある地域の文化は消えていってしまう。

だが、建築の記憶にある文化は建築が跡形もなく消えるまでは残っていく。

現在に行なわれている文化の中で、建築の記憶がないものはお盆の行事である。

盆行事の建築をつくることで、地域の記憶は残り続ける。

時が流れ 1000 年後

たまたまこの土地の海の上を散策、または海中を潜っていると、何か違和感を覚え、表面を良くみると人工物が出てきた。

これを調べてみると、1000年前に建てられたものであることがわかった。もっと調査をしてみると、ロウソクや線香の成分、

文字が掘られた石が発見された。死者を弔うことが行なわれていたかもしれない。

その建築物から読み取れた方向にも文化的な痕跡が見られ、周囲からは家や学校などの痕が見られる。

ここはかつて地表であり、人の住む村があり、文化があったことがわかる。

そうして、1000年後にもこの村の記憶が繋がり続ける。

1-2. コンセプト

現在

盆行事をするにあたり、足の悪い高齢者でも行くことができる。

1年に1回の行事に出向くことで、盆行事を通じて人とのつながりを再確認する。

1000年後 1000年後、自然の力を借りて痕跡を残す。

建築 1000 年後の痕跡 盆行事の痕跡を残すための操作

上に砂が積もる



時間が経つと、周りの砂が 砂が上から下に落ちるようにし、 スラブに積もってくる。 スラブの負担を軽くする。

スラブを曲げる



1-3. ダイアグラム

地面を掘る



地面を掘ることで、グランドレベルよりも涼しい 場所で盆行事を行うことができる。

スラブをいれる



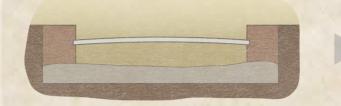
スラブを差し込み、2つの空間をつくる。

明暗で場を分ける



ナイター照明により明暗の分かれた空間ができる。 盆踊りの場を明るい所で踊り、初盆の場を暗い所で行なう。

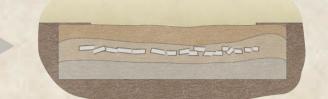
記憶の堆積



砂が積もっていく。



建物の一部が壊れる。



砂が積もっていき、 地層のような記憶保持の役割を持つ。

1000 年後

太陽の方向

恒常的な太陽の位置に開口をあけ、 盆行事の時間帯を残す。

自然の力によって痕跡を残す

現在

建築物

土が地下を埋めていき、 雨風の影響を受けにくくなる。

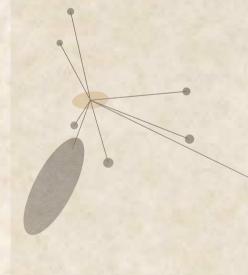
天満宮の階段を上り終わる前にある、地層。

建築物を覆うように植物が生える。

海に浸かり始める。

海に沈み、表面が波により露出する。

文化的なものの方向



敷地から文化的なもの(神社やお寺など) と繋ぐことで、1000年後、 その方向に残った 文化的なものとの関係性を示し、 この場所でも文化的なことが 行なわれたことを示す。

土の中に埋もれる。

周りは植物が生える。

大昔、この地域は海の中であった。

小さい石や大きい石でできた層になっていて、海の中にあったことがわかる。

村でも様々な大きさの石でできたものがよく見られる。



鳥居の素材



アスファルトと地面



村にあった石垣

設計するものの外壁などに村の海の石(下記のような)を使い、空間ごとに石の大きさを変える。



海岸にある大きさの異なる石

1-4. パース



ナイター照明による明るい場。



優しく包み、ろうそくと線香の火の光がほのかに光る。



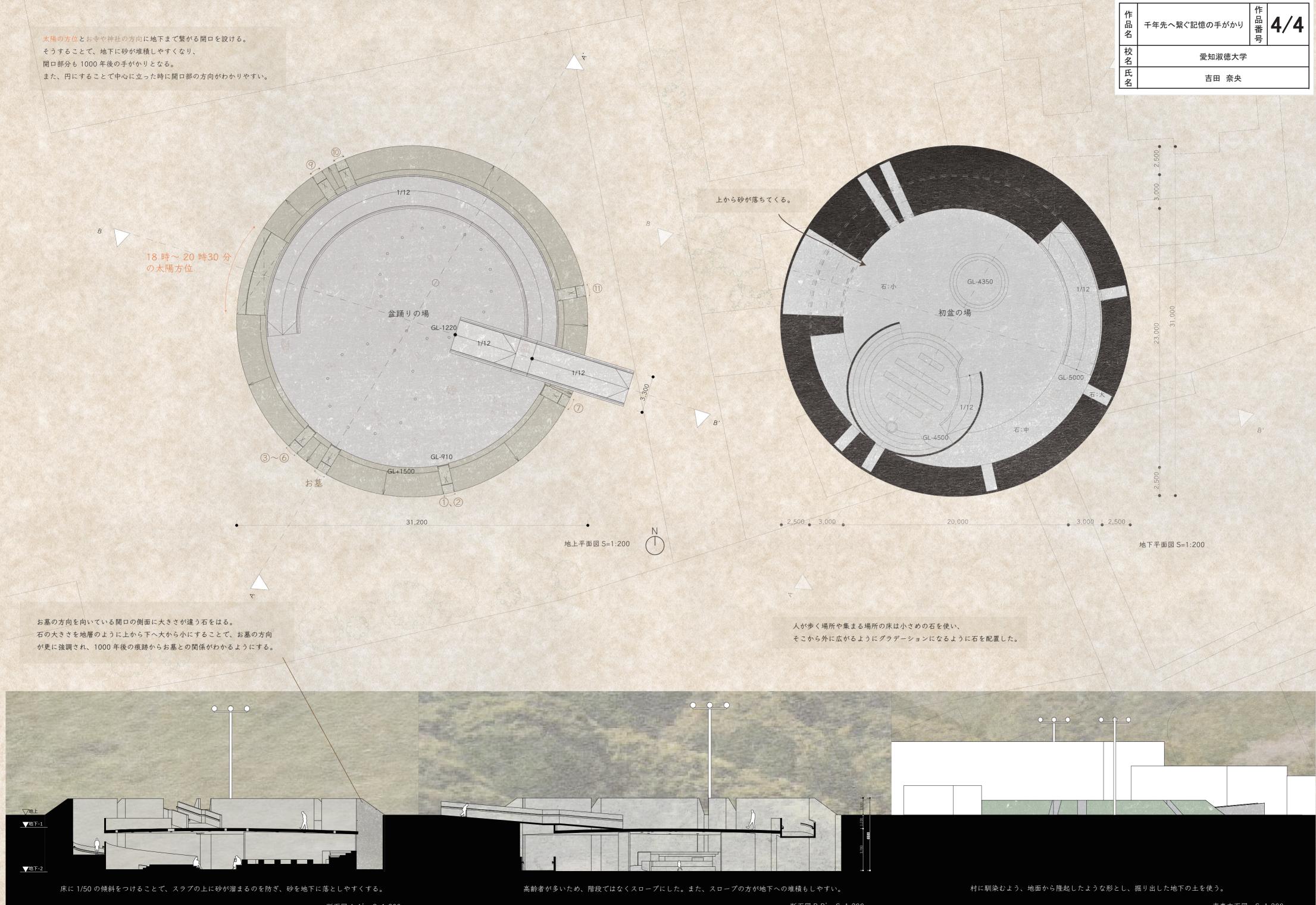
天井に穴があいているため、ナイター照明の光が下の初盆の場を天井や火、提灯からのわずかな光で、村人が集まって新仏について 思い出話をする。



文化的な方向の開口や天井の穴から、地下に落ちてきた砂が溜まる。 海面上昇により、海の中に沈む。 記憶の堆積がおこる。 天井の穴にはめていたガラスは経年劣化により割れて、光を取り入 し始める。 れていたものが砂を取り入れるようになる。



海に沈むことで、植物で覆われていた建物の表面が露出



断面図 A-A' S=1:200 断面図 B-B' S=1:200